

ダイアコート[®]軟膏0.05%・クリーム0.05% を使用される患者さんへ

本剤は医師、薬剤師の指導のもとで使用してください。



ダイアコート軟膏・クリームを使用する前に

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- 以前に本剤を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある方。
- 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症、疥癬・ケジラミなどの動物性皮膚疾患、鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎、潰瘍、熱傷・凍傷がある方。
- 妊娠または授乳中の方。

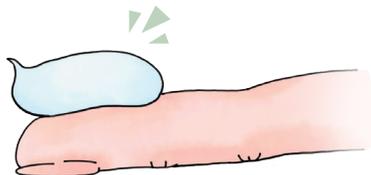
ダイアコート軟膏・クリームを使用するにあたっての注意

- ✓もし、本剤の使用中に刺激感などの過敏症状やかぶれが現れた場合には、直ちに使用を中止し、医師にご相談ください。
- ✓感染症が疑われる場所（みずぼうそう、水虫など）には使用しないでください。
- ✓眼科用としては使用しないでください。
まぶたへの使用については必ず医師の指導に従ってください。
- ✓顔、首、陰部、わきの下や肘の内側、膝の裏側、乳房の下など皮膚が擦れる場所に塗る場合は、副作用が発現しやすいので医師の指導に従ってください。
- ✓塗った上に手袋をはめたり、他のテープ剤や絆創膏または布やラップのようなもので覆うと、副作用が発現しやすくなるので、特別な場合（医師の指示がある場合）を除いては避けてください。
- ✓化粧下、ひげそり後などには使用しないでください。

ダイアコート軟膏・クリームの塗り方

1日1回～数回適量を患部に塗布してください。

- 本剤の効果を引き出すためには、必要となる量をきちんと塗る必要があります。塗る量が少なすぎると十分な効果は期待できません。
- 本剤を大人の人差し指の先から第一関節までの長さを、大人の手約2枚分の広さに塗ってください。ティッシュペーパーが軽く貼りつく程度のべたつきが目安です。
- 炎症を鎮めるお薬ですので、赤みやかゆみは抑えられてきますが、良くなったからといって、急にやめたり、自己判断で外用の回数を減らすと、かえって症状を悪化させてしまうこともあるので注意が必要です。先生の指示に従って正しくご使用ください。



軟膏の場合は、大人の人差し指の先から第一関節までの長さが約0.5gで、大人の手約2枚分の面積を塗ることができます。



ステロイドとは

●ステロイド外用薬のランクと薬の強さ



「ステロイド」とは、もともと腎臓の上にある「副腎」という器官で作られるホルモンの一種です。これを人工的に合成したのがステロイド外用薬で、皮膚の炎症を抑えるために、皮膚の局所で作用を発揮します。

ステロイド外用薬は、その強さによってI群～V群まであり、炎症の強さ、炎症が起きている部位、患者さんの年齢などを考慮して、適切な強さのものが処方されます。

このお薬は、最も強いI群(ストロングゲスト)にランクづけされています。先生から指示された部位、塗る回数、期間を守って正しくご使用ください。

ステロイド外用薬とは？



副作用について

ステロイド外用薬を治療に使用する塗り方(正しい使用方法)では、重篤な副作用が起こることはほとんどありません。

このお薬による治療で症状が改善してきたら、塗る回数を減らしたり、場合によっては強さの弱い薬に替えたりして「皮膚が薄くなる」「毛細血管が拡張する」などの副作用が出ないようにしていきます。

副作用は、薬を塗った部分だけに現れ、多くのものは程度の軽いものになります。症状が改善しステロイド外用薬を塗る回数や量が少なくなると、副作用は軽快あるいは消失します。

副作用への不安がある方は、医師や薬剤師に相談し、**正確な情報**を得るようにしましょう。

ステロイド外用薬の副作用と、誤解されやすい症状



ステロイド外用薬の主な副作用

毛細血管が拡張する



皮膚が赤くなる



皮膚がやや薄くなる



紫色の斑点ができる



にきびが悪化する



薬を塗った部分に毛が生える



かぶれ



ステロイド外用薬の代表的な副作用とその対処法

